

## 総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

### 1. 研究課題名

周産期メンタルヘルスケアの実際と今後の課題 ～助産師の意識調査から～

### 2. 研究の対象患者

- ① 2017年4月から2018年3月までに妊婦健診を受診した妊婦さん
- ② 2017年10月から2018年3月までに出産した褥婦さん

### 3. 研究の対象期間

2017年4月1日～2018年3月31日

### 4. 研究の概要

近年、我が国の社会構造の変化によって養育環境は著しく変化し、母親の育児不安や心の問題が顕在化してきている。周産期うつ病は、妊娠期も産褥期もその発症率の高さはほとんど変わらず、約10%の女性が妊娠期、産褥期のそれぞれで何らかの精神疾患を疾患するという報告がなされており、産後だけでなく、妊娠期からのケアも重要となってきている。周産期メンタルヘルスをめぐる数々の報告や研究から、周産期うつ病や精神疾患は本人の養育能力の低下や自殺、児への虐待、児の精神発達障害とも関連するとされ、多職種連携による妊娠期から産褥育児期までの切れ目ない支援の必要性が高まっている。A病院では、児童虐待予防のため虐待ハイリスクスクリーニングにより「特定妊婦」を抽出し介入を行っているが、精神疾患合併の妊婦や産後のメンタルヘルス不調を訴える褥婦は年々増加している現状がある。

2017年産婦人科診療ガイドラインでは「うつ病」と「不安障害」をスクリーニングし妊娠期から介入することが推奨され、国の政策としても産褥健診におけるメンタルヘルス強化に向けた取り組みが開始された。

助産師においては、その専門性を発揮した継続的なメンタルヘルス支援が求められているが、実際に支援にあたる助産師の対応や意識を述べている研究は行われていないのが現状である。周産期メンタルヘルスケアにおける介入状況と、対応した助産師の意識調査の結果を分析することで今後の課題を明らかにし、実践能力の強化に繋げられる。

### 5. 研究実施予定期間

2018年9月19日～2018年10月28日

### 6. 研究に用いる試料・情報の種類

- ① 患者ID、氏名、妊娠期メンタルチェックの結果、陽性項目、面談結果から陽性になった理由、面談希望の有無
- ② 患者ID、氏名、分娩日、メンタルチェック結果、マニティブルーズ 徴候、EPDS点数、マニティブルーズ 問診票点数、入院中の面談の有無、電話訪問の有無、産褥健診面接の有無、地域連携の有無

### 7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

(連絡先) 地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

・研究責任者：5階東病棟 廣村 美輪

・臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111(代)